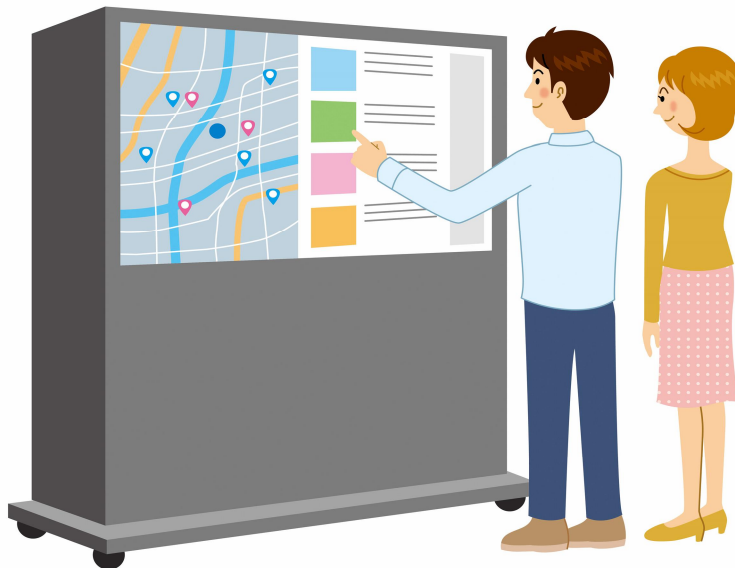


事業名称	デジタルサイネージ導入による市政情報発信力の強化		
寄附目標額	737千円	古河市総合計画の位置付け	7 - 2 - 1
事業区分	デジタル技術で多様な主体と共に創るまち事業		
関連するSDGs	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナリシップで目標を達成しよう		
			
現在抱えている課題	現在の古河市の情報発信は、広報誌・ホームページなど、情報を取りに来た人への情報発信が中心となっている。市民が受動的に情報を得る方法として市公式LINEが存在しているが、令和6年11月末時点で配信が届く人数は3万5千人である。これは市人口の約25%であり、他の75%に向けて異なる方法でのアプローチが必要である。1日2万人が利用する古河駅に現在設置している古河駅市政情報掲示板は紙のポスター貼り付け式のため、視認性が悪く、人々の目に留まりにくい。		
プロジェクトの概要及びポイント	JR古河駅構外に設置している紙ポスター貼り付け式の掲示板について、デジタルサイネージへ移行し、現在より効果的な市政情報の発信を行う。 市からのお知らせ、市内イベント情報の発信に加え、これまで掲示板では発信できなかった動画・写真など多様なコンテンツを視認性高く発信することで、“届く”情報発信を図る。また、クラウド型の配信管理システムとすることで、リアルタイムな情報発信、掲示・撤去手続きの省力を図る。		
目指す将来像	動画コンテンツ・写真ギャラリーなどコンテンツの多様化とクラウド型システム管理によるリアルタイムな情報発信により、本市の“今”を伝え、市政情報への訴求効果を高める。また、市のブランドムービーや市民記者の活動写真等を発信することで、市民のまちへの活動の関与を励起させる。また、行政が率先してDXに取り組むことで、市民や地元企業、団体に利便性やコスト削減等の効果を実感してもらい、各主体が自らDXに取り組み始めることで、地域全体のデジタル化を進展していく。		
事業担当課	シティプロモーション課		